

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

2&3

FEBRUARY / MARCH
2009

CONTENTS

ATMアンサンブル第23回演奏会……………1
平野公崇×山下洋輔×西山まりえ
SAXOPHONES MEET KEYBOARDS……………2
パイプオルガン“名器・名曲”探訪の旅
お話と演奏:浅井美紀……………3
合唱セミナー2009 講師:藤井宏樹……………4
SELF PORTRAIT 中澤敏子……………4
塙美里……………5
最近の公演から&プチ情報……………5~7
インフォメーション……………8



左上:小菅 優 右上:ATMアンサンブル
左下から:平野公崇、山下洋輔、西山まりえ

小菅 優との初共演。ピアノ室内楽を満喫する春の夜。

● 3/26(木) ATMアンサンブル 第23回演奏会

クラリネットの巨匠カール・ライスターと共演した第22回演奏会(2007年10月16日)以来1年5か月ぶりとなる、ATMアンサンブル第23回定期演奏会。ブラームスの〈クラリネット五重奏曲〉をメインに、しみじみと「秋のうた」を歌いあげた前回の演奏会から一転、今回はいわば、萌えいずる春の息吹を感じさせてくれる演奏会だと申せましょう。

そのような印象を与えてくれるのが、今回のゲストであるピアニスト、小菅 優です。水戸芸術館への初出演であり、もちろんATMアンサンブルとは初の共演。ちなみに彼女は、4月に行われる水戸室内管弦楽団第75回定期演奏会でも、音楽顧問・小澤征爾の指揮のもと、メンデルスゾーンの〈ピアノ協奏曲 第1番 短調 作品25〉を共演する予定です。1983年生まれ、20代半ばの小菅 優の登場が、演奏会の行われる春の季節にふさわしいフレッシュな風を吹きこんでくれることでしょう。

しかし、その年齢だけを根拠に、小菅 優を「若手ピアニスト」と呼ぶことは、正しくありません。9歳でリサイタルを行い、93年からヨーロッパに住んで研鑽を積んできた彼女は、すでに「若手」という呼称が不釣り合いなほど、堂々たるキャリアを積んだ国際派ピアニストとしての活動を続けています。16歳で録音したショパン〈練習曲集〉(ソニー・クラシカルSICC754)がドイツの権威ある音楽批評誌「フォノ・フォルム」で最高評価に輝き、その後も数多くのヨーロッパの名指揮者や名門オーケストラと共演を積んできた彼女は、日本よりも先にヨーロッパでの評価を高めてきました。

その演奏については、「ダイナミック」「繊細」「高度なテクニック」「しなやかな感性」「洞察力の深さ」といった形容詞が冠されていますが、およそ演奏に関

して与えられる賛辞の代表的なものがこうして惜しげもなく繰り出されてしまうあたりに、彼女の演奏の特質を実感することができます。つまり、特定の要素(テクニックや音色など)が突出して評価されるのではなく、それらをバランスよく兼ね備えている音楽であること。解釈の特異さや斬新さを競い合うのではなく、まずピアノという楽器の魅力を十全に感じさせ、なおかつ音楽的な充実感を存分に与えてくれる演奏であること。このような、いわば大家の至芸とすらいえる特色が、横溢する若々しいエネルギーに伴って聴き手に向ってくるのが、小菅 優というピアニストなのではないでしょうか。

彼女はすでに8枚のCDをソニー・クラシカルから発表していますが、一枚ごとに主張の明確さを強めていくのも注目されることです。2006年に発表された初めての協奏曲アルバム(共演はローレンス・フォスター指揮、北ドイツ放送交響楽団)は、腕の立つ若手ピアニストならリストやラフマニノフの協奏曲だろう… という予想を裏切ってモーツァルトの〈第9番〉(第21番)でした(SICC421)。そこには、技巧の誇示よりも「大切な作曲家の一人(小菅 優自身のライナーノーツからの引用)」であるモーツァルトの作品を通じ「オーケストラとの共演で一番大事なのは、その対話(同)」であることを確かめてゆこうとする、真摯な姿勢が感じられます。また、2007年のアルバム『ファンタジー』(SICC679)は、J.S.バッハからファリャにいたる9人の作曲家の〈ファンタジー(幻想曲)〉を集めた注目の内容で、選曲センスと幅広い音楽性を実感させてくれました。このような、演奏する音楽に対する真摯な姿勢とチャレンジ精神は、上記の演奏の特色共々、同世代のヴァイオリニスト、庄司紗矢香(05年12月に水戸芸術館でリサイタルを

行い、絶賛を博しました)を思わせるところがあります。共に熱心な読書家でもあるこの二人は、実際に通じ合う部分も多いようで、近年は仲の良い友達同士として共演も重ねているそうです。

小菅 優の紹介が長くなりましたが、ATMアンサンブル第23回定期演奏会では、ヴァイオリンの原田幸一郎、加藤知子、小林美恵、ヴィオラの豊嶋泰嗣、チェロの上村 昇という5人の練達の名手と彼女ががっぷり四つに組みます。演奏曲は、まずモーツァルトの〈ピアノ三重奏曲 ハ長調 K.548〉。ピアノ三重奏曲はモーツァルトの作品の中でも注目されることが少ない曲集ですが、有名な「三大交響曲」と同時代に書かれたこの曲は、3つのパートの緊密な交流と、晩年のモーツァルトの透明な抒情が両立する傑作です。一方ブラームスの〈ピアノ四重奏曲 第3番 ハ短調 作品60〉は、ブラームスの恩師シューマンが投身自殺を図った直後(1854年)に手掛けられたものの最終的完成には20年を要した作品。悲劇から受けた衝撃と、それを克服しようという意志との葛藤が感じられる力作です。そして、ドヴォルジャークの〈ピアノ五重奏曲 イ長調 作品81〉はブラームス作品とは対照的に、生の喜びとチェコの豊かな自然の息吹が横溢する逸品。いずれも個性的なこの3作を通じ、ATMアンサンブルと小菅 優とが交わる音楽の対話を、存分にお楽しみいただければと思います。

演奏会にご来場いただいた方には、カフェでソフトドリンクのサービスもごさいますので、ぜひご利用ください。また、同プログラムにより、愛知県・碧南市芸術文化ホールでの館外公演も3月27日(金)に予定されています(お問い合わせは同ホール TEL0566-48-3731まで)。



左から;平野公崇、山下洋輔、西山まりえ

楽譜と即興の間を駆けめぐる、3人の音楽家の自由な冒険！

● 2/15(日) 平野公崇×山下洋輔×西山まりえ SAXOPHONES MEET KEYBOARDS

チラシの前面に並んだ、強烈なオーラを発する3人の音楽家。『SAXOPHONES MEET KEYBOARDS』の名のもと、2月15日、誰も聴いたことのない「セッション」が、冬のコンサートホールATMを熱くします。

登場人物たち — 1.Masataka Hirano

まずは3人の登場人物をご紹介します。最初に、サクソフォンの平野。3人の中ではただ一人、水戸芸術館初登場となる平野公崇こそ、このプロジェクトが始動するきっかけとなった音楽家です。

19世紀に誕生した、比較的新しい管楽器サクソフォン。後発の楽器ゆえオーケストラの常備楽器にはなりませんでしたが、その力強さと甘さを兼ね備えた豊かな表現力に多くの作曲家が魅せられ、数多くの印象的なページが書かれました。オーケストラ曲ではビゼー：〈アルルの女〉(2007年11月の水戸室内管弦楽団第71回定期演奏会[指揮:ジャン＝フランソワ・バイヤール]で演奏され、そのときはサクソフォンをフランスの名手ジャン＝イヴ・フルモーが演奏しました)やラヴェル(ボレロ)などが有名ですし、この楽器のための協奏曲や独奏曲は、グラズノフ、ドビュッシー、ミヨー、イベール、ベリオ、ナイマンらによって、数多くの傑作が書かれています(水戸芸術館にも、クラシカル・サクソフォンの名手・須川展也が2度登場したことを、ご記憶の方も多いでしょう)。一方サクソフォンは、ポピュラー・ミュージック、特にジャズの楽器として、絶大な活躍をしていることは、よく知られている通りです。ジョン・コルトレーン、ソニー・ロリンズ、オーネット・コールマン、ウェイン・ショーター...ジャズの歴史には、綺羅星のごときサクソフォン(この場合サクソと呼びたいですね)の名手たちが名演を刻んでいます。

平野公崇は、疑いなく、サクソフォンの歴史に新しいページを加える音楽家です。クラシカル・サクソフォンの演奏技術は世界水準で最高クラス、どんな至難な新作も彼にかかるとは実にナチュラルな音楽に響いてしまう。その一方で、即興も自在に行うことができ、特殊奏法を駆使したフリー・インプロヴィゼーションも、音色まで切り替えてのストレート・アヘッドなジャズ演奏もできてしまう。サクソフォンという楽器の、新しさゆえの柔軟さを駆使し、彼は文字通りジャ

ズを超えたさまざまな音楽を自らの中で統合することができるのです。その成果をまず知ろうという方には、以下の3枚のアルバムをお勧めしましょう。『クラシカ』(クリストンOVCC-00003)はヒンデミット、ブラームス、J.S.バッハの硬派な大作3曲を自らの編曲で、『ジュラシック』(同OVCC-00006)は即興も駆使して、現代音楽、ジャズ、ワールド・ミュージックの領域を軽々と(自作も含む)。そして『シンフォニア』(同OVCC-00034)ではなんと18世紀のC.P.E.バッハの作品を。「サクソフォン以前」の時代の作品に、まったく新しい生命を吹き込んだ、驚愕の内容です。

登場人物たち — 2.Yosuke Yamashita

ピアノの山下洋輔については、もはや説明不要でしょう。1970年代にフリー・ジャズの闘士として欧米のジャズ界を文字通り震撼させ、その後、円熟味を増したジャズ・ピアニストとしての活躍はもちろん、あらゆるジャンルの音楽家との異種格闘技セッション、作曲、執筆活動と、多方向に無尽蔵の表現エネルギーを放射し続けている、まぎれもなく日本最強のジャズ音楽家です。水戸芸術館でも、1998年の「もけらもけらコンサート」、2001年の「現代音楽を楽しもう」で熱演をくり広げ、その記憶いまださめやらず、という方も多いことでしょう。平野公崇とも交流が深く、1月20日に東京オペラシティで行われる演奏会「茂木大輔PLAYSヤマシタ☆ワールド」では、山下作品(筒井康隆の最新長編小説に靈感を受けた新作交響詩〈ダンシング・ヴァニティ〉に注目!)を演奏するソリストとして、平野公崇も登場します。

登場人物たち — 3.Marie Nishiyama

そして、チェンバロの西山まりえ。2007年7月に水戸芸術館で行われた、まさに圧巻のリサイタルの印象は、いまだ鮮烈です。フレスコバルディ、カペソンからJ.S.バッハ、ソレルまで、「古い鍵盤音楽」という先入観を完膚なきまでに吹き飛ばす躍動感と即興性あふれる演奏で、会場を熱狂させました。特に最後のソレル〈ファンダンゴ〉のとり憑かれたような高揚ぶりには、いまだ語り草となっています。さらに彼女は、ヒストリカル・ハーブ(中世ルネサンス・バロック期にそれぞれ用いられていたタイプのハーブ)の名手で

もあり、この日のリサイタルではチェンバロとハーブ、2つの楽器を弾き分けるという難れ業もみせました。話題のグループ「アントネッロ」の一員としても活躍し、バロック以前の音楽が豊かに持っていた即興性を「現代に生きたもの」として回復させる西山まりえは、「古楽」という枠を打ち破るパワーで、旋風を巻き起こしています。

邂逅のその先に

この3人が集結して、いったい何が起るのか。まだ秘密の部分、未知数の部分も多いのですが、少しだけ紹介しましょう。第1部は「Baroque Fantasia」と名づけられ、平野公崇と西山まりえが共演するパートです。ここでは、主にルネサンス～バロック音楽のレパートリーがとりあげられ、サクソフォンとチェンバロのデュオによって新しい生命が吹きこまれます。そこにはふんだんに即興も取り入れられることでしょう。第2部は「Jazz Rhapsody」。平野公崇と山下洋輔の共演です。タイトルが示すとおり、ここでくり広げられるのはジャズという20世紀が生んだ即興芸術の粋。しかしこの2人の共演なので、ジャズの様式をゆったり楽しむというよりは、ジャズという音楽の無限の可能性を、めくるめくスリルと共に体感することになるのは必至でしょう。山下洋輔ナンバーも、もちろん登場するはずですよ。

2つのパートを結ぶキーワードは「即興」です。「クラシック音楽」にもかかわらず豊かに存在した即興の要素。ジャズや現代音楽がふんだんに備えている、即興の可能性。楽譜と即興の間を縦横に駆けめぐる3人の音楽家によって、異なるジャンルと思われていた音楽たちの、心と心くみ合いが実現する…そんな期待が高まります。両パートをつなぐ共通モチーフとしてルネサンス～バロック期に愛されたある変奏曲主題が登場するかも? 3人のソロも聴けるはず? 「日本の音楽」もキーワードかもしれない? 「3人そろっての共演」はある? いやそれはもういろんな「?」が飛び交っているのですが、ここですべてをお話するのは野暮というもの。申し上げることはひとつ、2月15日、前代未聞の音楽の邂逅に、ぜひお越しください!

【矢澤】



浅井美紀

紀元前から現代まで、長い歴史をもつオルガンの名器・名曲をご紹介します。

● 3/30(月)パイプオルガン“名器・名曲”探訪の旅(お話しと演奏:浅井美紀)

パイプオルガンの歴史や古今の名器を画像やお話しなどでご紹介すると共に、「これだけはぜひ聴いていただきたい!」というオルガン音楽の名曲を、一挙に集めて演奏するコンサートです。

ご出演いただくオルガニストの浅井美紀さんのインタビューを掲載します。どうぞご覧ください。《中村》

— 浅井さんは1997年から水戸芸術館の「プロムナード・コンサート」に、そして2003年からは水戸市内の幼稚園、保育園の子供たちが毎年1,000人以上参加している「幼児のためのパイプオルガン見学会」に、ご出演いただいできています。これまでの水戸で思い出深い演奏会、出来事などを教えてください。

浅井:一番印象に残っているのは、初めて水戸にオルガンを弾きに来た時のことです。そのとき私はまだ大学2年生でした。プロムナード・コンサートを控えて前日にリハーサルをしながら、大きな責任を感じると同時に大きな期待を抱いたことを、今でも鮮明に覚えています。

あとは、やはり2003年からの「幼児のためのパイプオルガン見学会」ですね。見学会を通して、来てくれた小さな子供たちの反応に一喜一憂している自分というのが、今では生活の中でごく自然に存在しています。見学会で「オルガンを将来弾きたいんだけど、まず何をしたらいいですか?」という質問を受けたり、迫力満点なオルガンの魅力を伝えようと工夫したところ、効果がありすぎて大泣きしてしまう子がいたり(笑)。色々な子が遊びに来て、皆がこのオルガンを楽しんで帰っていきます。オルガンとの出会いが実現できる、とても良い場だなと思います。

— 今回は、浅井さんのとても素敵なアイデアをもとに、この公演が実現しました。そして、浅井さんに演奏ばかりでなく、お話しもさせていただきます。演奏会の内容についてお教えてください。

浅井:この演奏会についてお声をかけていただいた時に、相反する2つの気持ちにとらわれました。「本当に自由に好きなことをやってください」とお声をかけていただき、期待に胸高まり、「ああ自由なことができるんだ。さて、何をやろう。あれもやりたい、これもや

りたい!」と… はじめはとても楽しい気分になりました。それは幸せな時間だったのですが、同時にとても絶望的な気持ちにもなりました。その嬉しかった気持は少しずつ、「とても私にはお引き受けできないコンサートなのではないか」という思いに変わっていきました。「2000年以上の歴史があり、色々な国で使われ、様々な形でもてはやされたり虐げられたりしてきた楽器のことを、私が紹介するなんてとうてい無理だ…」という気持ちになったのです。でもある時、1つの結論に達したのです。それは、「そんな2000年もの、色々な国で培った歴史を私が紹介できないのは当たり前だ、それならどうしたらいい? その紹介できないほどの壮さを紹介すればいいのだ」というものでした。「こんなにすごい世界なんだ、こんなに長い歴史をもってこんなに沢山の国で過ごしてきた楽器、そのロマンだけでも皆さんと一緒に共有できれば」と思ったのです。そこから具体的なことを考え始めました。水戸芸術館のオルガンは、「マナオルゲルバウ」という工房で、日本人の手によって1990年に造られた楽器です。いわば20歳弱の楽器で、日本の中で言えば、最近でも大きな楽器が新しく完成したりしているの、水戸のオルガンはお兄さん、お姉さんの部類に入ってくる楽器なのかもしれません。しかし、それは世界の中でみれば、本当にまだ赤ん坊で、他の国には400歳や300歳の楽器が実在しています。ですから、ひょっとしたら「たかだか完成から20年位の楽器に何ができるのか」と思う人もいるかもしれませんが、水戸のオルガンも、オルガンのこれからの歴史を作っていくことに寄与する楽器のひとつなのです。今回の公演の第1部では、紀元前から現代までに造られたオルガンを画像と共にご紹介します。そして、水戸の楽器も、やがてそういう歴史の中のほんの片隅ではありますが、それを必ず担っていくものであり、すべてのオルガンの歴史に繋がっていくのだということを、皆さんにも感じいただけたらと思っています。

ところで、「演奏者や聴衆にいつも愛されているオルガン」というのは幸せなんです。いい音色にだんだん育っていきます。オルガニストも喜んで弾いて、それを聴きに来た人々も喜んで聴いている—そういうオルガンに水戸のオルガンにも是非なってもらいたくて… 今ももちろんそういう部分はあると思いますが、もっとそ

ういう風になれると思っています。

第2部では演奏をさせていただきます。「私もし、オルガンについて全く何も知らない人だったら、こんなプログラムを聴いたらきっとオルガンを好きになるだろうな」という曲を集めてみました。今回のコンサートで私と同じ時間を過ごして、オルガン音楽やオルガンという楽器に興味をもって、芸術館のオルガンが好きになって、そこから皆で一緒にそのオルガンの成長を見守っていけるような、そういうことの第一歩になったらこんなに幸せなことはないな… と思っています。

— 第2部の演奏コーナーのプログラムについてお教え下さい。

浅井:今回は特にオルガン音楽の歴史において、大きな役割を果たしたドイツとフランス、2つの国のバロックから現代に至る作曲家の作品をご紹介します。ドイツのオルガン音楽では、ブルーンス、J.S.バッハ、シューマン、レーガーの作品を、一方フランスのオルガン音楽では、クーブラン、フランク、メシアンの作品をご紹介します。

— 最後に、水戸の聴衆に向けてメッセージをお願いします。

浅井:私は、水戸市内の幼稚園や保育園に通う小さなお友達のためのオルガン見学会を担当する一方で、東京の高校で音楽の授業も受け持っています。先日、東京の高校生たちとオルガン見学会を行うチャンスがあり、彼らに何を話そうかと考えました。最初は、幼稚園の子供たちと同じような話をしたら高校生には平易すぎて、ひょっとしたら生徒は機嫌を損ねちゃうのではないかと思ったのですが、結局、水戸での見学会と全く同じお話をしました。そうしたら、なんと驚いたことに幼稚園生とまったく同じように喜んでくれたのです(笑)。音楽を楽しむ、あるいはオルガンを楽しむということに、年齢や知識などは関係ないのだと、この時つくづく思いました。どうぞ皆さんも気構えことなく、会場に足を運んでいただけたらと思います。小学生から大人の方まで、楽しんでいただけるコンサートにしたいと思います。

— ありがとうございます。



藤井宏樹



中澤敏子

藤井宏樹氏の指導で、三善 晃〈木とともに 人とともに〉を歌う！

●3/15(日)合唱セミナー 2009 講師：藤井宏樹

合唱を愛する皆様に、毎年ご好評いただいている恒例の企画「合唱セミナー」(茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催)。畑中良輔氏、林光氏、池辺晋一郎氏、新実徳英氏、桑原妙子氏、栗山文昭氏など日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者を講師に迎え、あらかじめ決められた曲を半日かけて練習します。グループごとのご参加はもちろんのこと、個人でのご参加も大歓迎。合唱を愛する方ならばどなたでも参加できるセミナーです。ぜひ一緒に、声を合わせて歌いませんか？

注目の合唱指揮者、藤井宏樹氏

今回講師にお迎えするのは、女声アンサンブル「Juri」、合唱団「ゆうか」、メンネルコール「広友会」などの指揮者として、近年とみに多忙で充実した活動を展開している藤井宏樹氏です。昨年2月には女声合唱団「アルモニアRosa」の演奏会で客演指揮者として水戸芸術館にも登場していますので、その素晴らしい

指揮ぶりに感銘を受けた方も多いことでしょう。

藤井氏は、畑中良輔氏(水戸芸術館音楽部門芸術総監督)に声楽を師事し、東京芸術大学声楽科を卒業。畑中氏に指揮者として、また指導者としての能力を高く評価され、氏の勧めで合唱指揮者に転向したそうです。歌とそのテクニックを知り尽くした藤井氏の指導は、歌うよるこびを再発見させてくれるに違いありません。

三善晃の〈木とともに 人とともに〉

今回、藤井氏が選んだ講習曲は、三善晃作曲の混声合唱曲〈木とともに 人とともに〉です。1999年、東京文化会館のリニューアル記念事業の一環として作曲されました。詩は、三善晃が合唱曲に良く使う谷川俊太郎の詩。ただ、これはすでに出版されていた詩ではなく、三善さんが谷川さんに初めて書き下ろしをお願いしたものだそうです。

『書いていただけるかどうか。不安な日時が過ぎ、みんなが半ば諦めかけたとき、谷川さんから自筆の詩〈木

とともに 人とともに〉が送られてきた。驚喜という言葉は、このときのためにあった。読んだ。感動という言葉も、このときのためにあった。「森」が私たちを抱き、「星座」がきらめいていた。「歌」が文字の中に鼓動していた。』(三善 晃)

三善さんがこの詩を読んだ時の感動が、そのまま音楽になったかのような合唱曲〈木とともに 人とともに〉。この名曲を皆さんと一緒に歌ってみませんか。

ご参加にあたっては、楽譜『混声合唱曲集 木とともに 人とともに』(カワイ出版刊 1,155円)をご用意いただき、事前に皆様各自で譜読みをお願いします。ふるってのご参加をお待ちしております。 【関根】

SELF

PORTRAIT

**喜寿を迎えますます盛ん。
茨城の音楽界の重鎮・中澤敏子の飽くなき挑戦。**

**■2/22(日)
～喜寿にうたう～
中澤敏子
ソプラノ・リサイタル**

「歌い続けて50年」というタイトルで第1回のリサイタルを行ってから7年の歳月が流れ、再びこの芸術館で演奏会を持つことができる幸せと責任の重さを日々感じております。

今回は、高校教師として合唱指導をしていた時代に教えを受けた故・木下 保先生との忘れられない思いの曲〈沙羅〉を歌います。先生提唱の“やまとこ

とば”による演奏を、今を生きる声楽の世界の方々にも共感していただけたらと思います。

この度、二つの出会いがすばらしい曲の誕生につながりました。水戸市在住の歌人・小林フミさんの『曝井』の詩。作曲家・寺嶋陸也氏に委嘱し、6曲の美しい歌曲が生まれました。水戸市の西方、那珂川の近くに、『万葉集』にも詠われている曝井があります。1,300年程前から湧き出ている泉、その昔乙女が布を晒したという曝井。私が子供の頃(70年前)毎夏その冷たい水を飲んだ思い出の泉でもあります。お二人のすばらしい芸術が生んだ〈曝井〉の曲を作曲家御自身の清冽なピアノの調べにのせて歌い上げたいと願っております。

この7年間、新たな声楽の世界への奥深い勉強のため、畑中良輔先生監修の福光サマーセミナー、塚田佳男先生指導の瑞穂の会、関 定子先生指導のリラの会の仲間に入れていただきました。私にとって未知の声楽の探求の日々に身を投じて参りました。

今回の後半の曲は、すべて初めて歌う至難の曲ばかりを集めてみました。

中田喜直作曲の〈こどものための8つのうた〉、猪本 隆作曲〈愛〉、橋本國彦作曲の〈舞〉など、日本語の美しい言葉を伝えられる発音をふまえつつ、曲の美しい流れをそこなわずに、しかも声のひびきも喜寿+1(本当は)の声であっても、人に聞かせられる歌・うた・詩でありたいと、一生けんめい勉強を重ねて参りました。

第一回目も暖かく情感溢れるピアノで私の歌を支えて下さった塚田佳男先生が、今回も私をはじめ皆様方をすばらしい芸術の世界に誘って下さることでしよう。

どうぞ芸術館においていただき、お聴き下さいますよう、お待ち申し上げております。

中澤敏子



塙 美里

若きサクソフォニストが記念すべき初リサイタル。フランスの風とともに。

■ 3/22(日) 塙 美里 サクソフォン・リサイタル

水戸芸術館は今の私を形成した場所と言っても過言では無い。私の母は良いコンサートの為なら少しのお金も惜しまなかった。時々家に送られてくる会報と睨めっこし「う〜ん、これは良いぞ」とあっと言う間にチケットを取り、私の少しだけ気分の良い夜の予定がカレンダーに埋まっていく。

母は時々小学校を早退させて小さな私を車に乗せ真弓の山から水戸までの道のりをエンジン全開にしかっ飛ばす。私はその事にこればっちも後ろ

めたさなんて感じていなかった。

時々やってくるその夜は少しだけ自分がお姫様にもなったようなそんな気分させてくれた。いつもより少しだけ可愛いお洋服を着て、コンサートの前に少しだけお洒落なレストランに寄り道して、両親は少しだけワインを飲み、私はそんな夜は少しだけ浮立ち姿勢もしゃんとしてみせる。

必ず私達家族は中央の前方に座った。それは母の「お気に入り」の場所…。幾ら好きな音楽とは言えそんな夜は時々私を夢の世界へと誘い込む。母は決まって耳元で「疲れているのだから、寝てなさい」と言ったものだ。「音楽は無理に聴くものではない。良いものを聴く機会を与えるがそれから後の選択は自由。」といかにも母らしい考え方。

これまで思い出せないくらいの沢山の芸術館のコンサートに足を運んだ。

アナトウール・ウゴルスキ氏、ジャン＝マルク・ルイスダ氏のリサイタル、中村紘子先生、故・園田高弘先生の公開レッスン…。ウゴルスキ氏のリサイタル

の終わりには小さな花束を抱え、ステージに一目散に走って行った事。その時の氏の手のあったかい事とおっきい事。当時小学校2、3年生の私には2、3倍はあったと思う。とても優しく紳士的であったかなお人柄に秘かに憧れを抱き、こんな人になりたいと心に決めた瞬間だったのかもしれない。

今私はフランスに留学して2年が経とうとしているが一番音楽が身近に感じられる環境に感謝しながら勉強に励んでいる。

最後になってしまったが、このような素晴らしい機会を与えて頂いた皆様に心から感謝申し上げる次第だ。

今回はフランスもののフランクやドビュッシーが演目にあるので少しでもフランスの雰囲気をお伝えできたらと思っている。

塙 美里

最近の公演から

OCTOBER
NOVEMBER
DECEMBER



1



2

ソフィー・イーツ

チェンバロ・リサイタル (10月18日)

前日に来日したばかりのソフィー・イーツ。しかし、その疲れを微塵も感じさせない、にこやかな笑顔で、彼女は水戸駅の改札口に現れた。ホールに足を踏み入れ、タスカン・モデルによるマイケル・ジョンソン製作のフレンチ・チェンバロに向かうと、要所要所のフレーズやアーティキュレーションを確かめるかのように細やかな練習が始まる。演奏会になると、それが有機的に結ばれ、まるでパズルのピースが埋まるように、精彩ある音楽が立ちあられる。フローベルガーにはじまりクーブランやラモーを経てバッハに至る旅路は、個々の音楽の性格をくっきりと描き分けながら、みごとにひとつの航跡を描いた。アンコールはラモー：〈ロンドー形式によるミュゼット〉〈タンブラン〉。終演後のサイン会も盛況。《矢澤》

アンケートから ● チェンバロの響きが美しかった。(中略) ソロで聴くとこんな音なんだ、と感激した。(立川市：F.T.さん) ● ジャーマン(チェンバロ)での

力強いバッハと違って、フレンチモデルでの典雅で軽やかなバッハも、新鮮な体験でした。(無記名の方)

● 秋の夜長にふさわしく、クール/ドラマチック/ツヤっぽく/軽快なリズムに感動(水戸市：H.F.さん)

高校生音楽講座2008・

第4回(10月10日)、第5回(10月31日)

第4回「楽器が違くと、音楽も違う?」は、「ソフィー・イーツ チェンバロ・リサイタル」に関連して、チェンバロ音楽史を概観。その後登場したピアノとの特性の違いなどを音で確かめながら、時代によって異なる響きの美学について考察。第5回「対決! ヴィヴァルディvs バッハ」は、「水戸室内管弦楽団第74回定期演奏会」に関連して、後期バロックを代表する2人の作曲家の音楽を比較しつつ、それぞれの音楽の特徴と意義、同時代と後世の人々の価値判断の変化などについて考えた。詳しい内容は担当者ブログ <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> 「高校生音楽講座2008」の項目をご覧ください。《矢澤》



1



2



3



4



5



6



7



8

豊田あい子 ピアノ・リサイタル(10月26日)

水戸で育ち、ニューヨークのジュリアード音楽院の修士課程を修了し、現在は茨城を拠点に活動を行っている豊田あい子さんのリサイタル。「アメリカ音楽“音の戯れ”ロマン派から現代へ」というテーマの下、ガーシュウィン、マクダウェル、カウエル、バーンスタイン、バーバー、コブラント、ケージなどの作品が取り上げられた。ケージの〈危険な夜〉は、ピアノの弦の間にボルト、竹、ゴムなどを挟み、打楽器的な効果をもたせたプリレコード・ピアノのための作品。最後に置かれたダヴィッドフスキーの〈シンクロニズム 第6番〉は、録音された電子音に合わせてピアノが演奏される作品。豊田さんは、正確にコントロールされた打鍵で、抒情的な作品から実験的な作品まで全9曲を弾き通した。アンコールはドビュッシーの〈月の光〉。

《中村》

アンケートから●演奏も素晴らしかったが、選曲が大変面白かった。アメリカの音楽の流れ、道筋がわかり、想像力をかき立ててくれた。(東京都:K.K.さん)

●とても新鮮で楽しめました。それぞれの曲にテーマがあり、興味深かったです。奏者の情熱を感じました。(無記名の方)

水戸室内管弦楽団

第74回定期演奏会(11月8日、9日)

水戸室内管弦楽団

子供のための音楽会(11月7日)

ナタリー・シュトゥツマン(コントラルト)、クリスティーン・ショルンスハイム(チェンバロ)、工藤重典(フルート)、ダーク・イェンセン(ファゴット)をソリストに迎え、“バロック音楽の愉しみ〜ヴィヴァルディとバッハ”と題して開催された第74回定期演奏会、いかがでしたか?水戸室内管弦楽団(MCO)の原点に戻ったかのような、小編成のアンサンブルによる演奏会となりました(当初は、もう少し多い人数でのアンサンブルを考えていましたが、リハーサルで最適な響きと楽器間のバランスを検討した結果、曲によってメンバーが交代で乗り降りすることに決まりました)。お客様から寄せられた熱いご感想の数々、ありがとうございます!とても全部は載せきれませんが、下記アンケートをご覧ください。

本番の前日には、茨城県武道館を会場に、毎年恒例の「子どものための音楽会」を開催しました。定期演奏会で演奏する曲の抜粋のほか、楽器紹介のコーナーではセクションごとにメンバーがパフォーマンスを披露。子どもたちを大いに沸かせました。《関根》アンケートから●独奏楽器もヴァリエティに富んで、ふくよかでさびやかな音色を楽しめました。MCOもまるでバロック専門のオーケストラのように見事なアンサンブルでした(水戸市:T.M.さん)●ブランデンブルクがあんなに楽しいモノだったとは驚きです。特に益子(潮田)〜田中のインタープレイが素晴らしかった。(筑西市:M.O.さん)●バロックのプログラム、シュ

トゥツマンの独唱。まさにMCOならではの企画、名演で素晴らしかった。(高萩市:H.O.さん)●涙があふれて止まらないほどの「悲しみの聖母」(スターバト・マーテル)であった。(土浦市:K.K.さん)

宇野陽子 チェロ・リサイタル(11月30日)

水戸出身で、桐朋学園大学を経て、イギリスのトリニティ音楽大学に留学した宇野陽子さんのリサイタル。ピアノ伴奏は、宇野さんが学生時代から信頼を寄せる諸田由里子さん。プログラムは、「ベートーヴェン:チェロ・ソナタ 第2番 作品5の2」、「ショスタコーヴィチ:チェロ・ソナタ 二短調 作品40」、「メンデルスゾーン:チェロ・ソナタ 第2番 作品58」の3曲。宇野さんにとっては、故郷の地での初の本格的なリサイタルであり、非常に意欲的なプログラムが組み立てたと言えよう。想いの籠められた、渾身の演奏が、未来に向けての彼女の大きな可能性を窺わせていたのではないだろうか。アンコールは、「エルガー:愛の挨拶」。

《中村》

アンケートから●落ち着いたチェロの音色が素晴らしかった。メンデルスゾーン作品がよかった。ショスタコーヴィチ作品は楽しかった。(水戸市:H.I.さん)

●チェロの響きがとてもよかったです。(無記名の方)

アートタワーみとスターライトファンタジー 第13回クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート](12月6日)

水戸芸術館や水戸駅前などをライトアップする水戸の冬の風物詩が、アートタワーみとスターライトファンタジー。同イベントの一環として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露するのが「クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]」です。今年も吹奏楽、金管合奏、合唱、ミュージックベルなど20校、25団体、およそ900人の生徒さんが出演しました。《中村》

中村佳代ピアノ・リサイタル(12月7日)

姉の中村真由美さんとのデュオ・リサイタル、「クリスマス・プレゼント・コンサート」でのメシアン演奏、「水戸の街に響け! 300人の《第九》」でのヴァーグナー編曲によるピアノ版演奏などで名演を聴かせている中村佳代さんが、水戸芸術館では初のソロ・リサイタルを行った。プログラムは、モーツァルト〈ソナタK.576〉、ショパン〈3つのマズルカ〉、〈スケルツォ作品31〉、ドビュッシー〈版画〉、メシアン〈幼児イエスに注ぐ20のまなざし〉(6曲を抜粋)というもので、それぞれのピアノ曲の魅力が存分に発揮された。近年のクリスマス・プレゼント・コンサートでの演奏の集大成ともいえるメシアンはとりわけ印象深く、集中して聴き入る会場をメシアン独特の多彩な音色の世界に引き込んでいた。アンコールは、ドビュッシー〈巫色の髪の乙女〉。《関根》

1~2.豊田あい子ピアノ・リサイタル
3~4.水戸室内管弦楽団 第74回定期演奏会
5.子どものための音楽会

6~7.宇野陽子 チェロ・リサイタル
8.アートタワーみとスターライトファンタジー 第13回クリスマス・コンサート



アンケートから●中村さんのドビュッシー、そしてメシアン
の素晴らしい演奏、最高に幸せな時でした。(無記名の方)●生の演奏を聴いて、心が浄化される思
いがした。すばらしい演奏に驚いた。日々の鍛錬が
並大抵のものではないことをしみじみと味わった。また
の機会を待ち望んでいる。現代音楽を堪能させて
いただいた。(無記名の方)

水戸の街に響け! 300人の《第九》2008

(12月14日)

この度8回目を迎えた「水戸の街に響け!300人の
《第九》」。今年是一般公募232名、茨城県合唱
連盟118名あわせて350名の方がコーラスに参
加しました。最年少は8歳の女の子から、最年長の
82歳の男性まで、実に年齢も職業も様々な方たちで
編成されたコーラス隊が、9月から7回の練習を重ね
て本番に臨みました。

ところが、当日は生憎の雨。コーラス参加者も、私
たちスタッフも、きつと例年通り広場から高らかに歌声
を響かせられると信じていただけに、コンサートホール
での開催を余儀なくされた時は、本当に残念でした。
しかし、発声練習を始める頃には、「水戸の街に響
け!」という想いは、会場はどこであろうと何ら変わるこ
とはないと、改めて気づき、リハーサルを続けます。そ
の気持ちのもとに、指揮者(鈴木良朝)、コーラス、独
唱者(ソプラノ:結城滋子 アルト:大木 円 テノール:
倉石 真 バリトン:清水良一)、そして、器楽奏者(エレ
クトーン:小林由佳、久保田彩子 ピアノ:中村真由
美、中村佳代 ティンパニ:尾花章子)の皆さんはひと
つにまとまり、心の込められた熱い演奏が繰り広げられ
ました。外は冷たい雨が降り続けましたが、希望と友
愛のメッセージは街中に広く届いたことでしょう。

《中崎》

クリスマス・プレゼント・コンサート2008

(12月23日)

畑中良輔氏の企画・お話しにより、全7ステージで
お贈りした今回のクリスマス・コンサート。第1ステー
ジは、茨城出身のソプラノ歌手・小泉恵子さんと新
進のテノール歌手・藤井雄介さんによる、ヘンデル
の《メサイア》の中の4つのアリアの歌唱。第2ス
テージは、中澤敏子さん指揮で、声楽家の研究団体
でもある水戸の女声合唱団・野ばら会による、中田
喜直の〈ほしとたんぼぼ(詩:金子みすゞ)〉。第3ス
テージは生誕100年を迎えるメシアン(幼子イエス
に注ぐ20のまなざし)の中の2曲を藤井一興さんが
演奏した。出演者のサイン入りCDなどが賞品のプ
レゼント抽選会を挟み、第5ステージは、リンボウ先
生こと作家の林望さんによる、〈あんこまパン〉の楽し
いステージが繰り広げられた。第6ステージはソプラ
ノの小泉恵子さんによる、中田喜直の〈六つの子供
の歌〉のフランス語版の歌唱。そして最後は、中澤
敏子さん指揮、野ばら会、みと葵女声合唱団、水戸う
ら女声合唱団の合同のステージで、モーツァルトの
〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉やシューベルトの〈詩
篇 第23番〉などが取り上げられた。終演後は、引
き続き合同合唱団によって、エントランスホールでク
リスマス・キャロルの合唱が行われた。オルガン伴
奏は福本茉莉さん。《中村》

アンケートから●司会の畑中さんのお話が愉快でし
た。聖なる夜にふさわしく、かつ親しみやすい内容で、
とても良かったです。リンボウ先生の〈あんこまパン〉
は笑いました。(水戸市:Y.M.さん)●聖夜に星がぎ
らめくような歌と合唱にとっても感動し、涙しました。す
ばらしい夜に感謝です。(笠間市:M.W.さん)

1~2. 中村佳代 ピアノ・リサイタル
3. 水戸の街に響け! 300人の《第九》2008
4~5. クリスマス・プレゼント・コンサート2008



●1月5日(月)に行われた「ニュー・イヤー・コンサ
ート2009 ―うたの翼に―」は、NHK茨城県域デ
ジタル放送で生中継されましたが、再放送の予定が
決まりました。2月1日(日)13:05~15:50、NHK
茨城県域デジタル総合2チャンネルでの放映です。
●以下、音楽部門学芸員の活動をご紹介します。2月11
日(水・祝)には、水戸芸術館友の会主催による第
23回LD鑑賞会「ヤナーチェク:歌劇〈利口な女狐
の物語〉」が水戸芸術館会議場で行われます(14:
00から)。解説は関根学芸員。入場無料、対象は
友の会会員&同伴者1名、お問い合わせは水戸芸
術館友の会事務局(TEL029-227-8111)まで。●
2月5日(木)、12日(木)、19日(木)、26日(木)には
水戸市国際交流センターで連続講座「クラシック
音楽でめぐる世界の街 Vol.5」が、矢澤・関根・中

村の3人のリレーによって行われます。受付は終
了していますが、お問い合わせは水戸市国際交流
協会(TEL029-221-1800)まで。●第23回水戸
映画祭では、特別企画「シネマ×音楽」として、鈴木
清順1980年の名作『ツィゴイネルワイゼン』が上映
されます。2月21日(土)、会場はACM劇場(19:
00~)、プレトークは矢澤主任学芸員です。詳し
い内容はNPO法人シネマパンチのホームページ
<http://www.cinemapunch.com>をどうぞ。チケット
のお求めは水戸芸術館チケット予約センター(TEL:
029-225-3555)まで。

information

■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」
毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間
水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

水戸芸術館では、来館者の案内・誘導などを行う臨時職員：
ATMフェイスを募集します。
応募資格/短大卒業程度。土・日・祝日の勤務が可能で、接客業務が好きな方
(学生は不可)
賃金/時給800円・交通費別途支給 採用日/2009年3月1日
詳しくは、水戸芸術館総務係(TEL029-227-8111)までお問い合わせください。

チケット・インフォメーション

〈2月11日(水・祝)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団 第75回定期演奏会

4/26(日)18:30開演、4/27(月)18:30開演、4/28(火)18:30開演
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

※発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第75回定期演奏会では、
お1人様1回につき2枚までとさせていただきます。
※水戸室内管弦楽団第75回定期演奏会には、2月6日(金)より友の会維持会員、2月7日(土)より
友の会一般会員の先行電話予約がありますので、2月11日(水・祝)の一般発売の時点で、券種
によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

〈2月14日(土)発売分〉

◎高山三智子 ピアノ・リサイタル

4/11(土)18:30開演 料金(全席自由):¥3,500

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎平野公崇×山下洋輔×西山まりえ……………2/15(日) 中央×、左右・裏△

◎中澤敏子 ソプラノ・リサイタル……………2/22(日) 自由席○

◎モーツァルト:

ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第4回】……………3/6(金) 中央×、左右・裏△

◎合唱セミナー2009……………3/15(日) 自由席○

◎塙美里 サクソフォン・リサイタル……………3/22(日) 自由席○

◎ATMアンサンブル 第23回演奏会……………3/26(木) 中央×、左右・裏△

◎パイプオルガン “名器・名曲” 探訪の旅……………3/30(月) 1F△

※1/16(金)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券
を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生
券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な2・3月のスケジュール

コンサートホール ATM

■小・中・高生交流 音楽の祭典 ～水戸一中学区青少年育成会～

2/1(日)13:00開演 入場無料

■水戸芸術館友の会 第52回鑑賞会

ホルン・室内楽の楽しみ ～水野信行と水戸の仲間たち～

2/8(日)14:00開演 料金(全席指定):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,000

友の会一般会員¥2,000

■平野公崇×山下洋輔×西山まりえ SAXOPHONES MEET KEYBOARDS

2/15(日)16:00開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥3,000

■中澤敏子 ソプラノ・リサイタル

2/22(日)14:00開演 料金(全席自由):¥3,000

■第7回大手橋プラムコンサート

3/1(日)13:00開演 入場無料

■モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第4回】 演奏とお話:野平一郎

3/6(金)18:30開演 料金(全席指定):¥2,500

- 元気みと創出 芸術文化活性化事業 親と子のファミリーコンサート
ロバの音楽座「らくがきブビビのコンサート」
3/8(日)14:00開演 料金(全席指定):3歳から小学6年生¥500 一般¥1,000
- 合唱セミナー2009 講師:藤井宏樹
3/15(日)10:00開始
参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300
- 塙美里 サクソフォン・リサイタル
3/22(日)16:30開演 料金(全席自由):[前売]¥1,500 [当日]¥2,000
- ATMアンサンブル第23回演奏会 ～小菅 優を迎えて～
3/26(木)19:00開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥3,000
- 水戸市立笠原小学校 金管バンド部 第17回定期演奏会
3/29(日)14:00開演 入場無料

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

2月:14日(土)、28日(土) 3月:未定

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

■パイプオルガン “名器・名曲” 探訪の旅 演奏とお話:浅井美紀

3/30(月)13:30開演 料金(全席指定):一般¥1,200 学生(高校生以下)¥600

ACM劇場

■シリーズ:日本の劇作家たち〈特別篇〉『北京の幽霊』

2/1(日)14:00開演、2/4(水)14:00開演、

2/7(土)19:00開演、2/8(日)14:00開演

料金(全席指定):一般¥2,500 団体(10名以上)¥2,250 学生¥1,500

■元気みと創出 芸術文化活性化事業

宇治文蝶 一中節三味線演奏会 ～人間国宝による伝統音楽の愉しみ～

2/15(日)15:00開演 料金(全席指定):¥1,000

■日本映画が好き2009

2/21(土)10:00～「西鶴一代女」、13:00～「近松物語」

2/22(日)10:00～「山椒大夫」、12:50～「雨月物語」

料金(全席自由/入場整理番号付):各日¥500 ※当日の出入り自由

■第23回 水戸映画祭

2/21(土)15:00～「たみおのしあわせ」、17:10～「ブロードウェイ♪ブロードウェイ」、
19:00～「ツイゴインネルワイゼン」

2/22(日)14:50～「歩いてても歩いてても」、16:55～「コドモのコドモ」、
19:10～「TOKYO!」

料金(全席自由/入場整理番号付):各¥1,000 ※各回入替制

■水戸市民舞踊学校公演「Mito Dance Collection 2009」

2/28(土)19:00開演、3/1(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,000

■水戸子供演劇アカデミー卒業公演『星の下、青い夜の王国』

3/21(土)14:00開演/19:00開演(2回公演)、3/22(日)14:00開演

料金(全席指定):¥800

現代美術センター

■ツェ・スーメイ

2/7(土)～5/10(日)9:30～18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な2・3月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■川崎洋介トリオ・コンサート

(Vn川崎洋介 Vcヴォルフラム・ケッセル Pfヴァディム・セレブリャーニー)

3/13(金)18:30開演

◆常陽藝文センター TEL/029(231)6611

■茨城演奏家連盟 第11回定期演奏会 2/8(日)14:00開演

(問)茨城演奏家連盟事務局(河合楽器水戸店内) TEL/029(252)2755

◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■ウィーン放送交響楽団 3/15(日)15:00開演

◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■茨城音楽文化振興会 第7回定期演奏会 アーリースプリングコンサート

2/8(日)14:00開演

※スペースの都合により、水戸市内の公演のみとさせていただきます。

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2009年2月発行 第139号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail[ankmr@arttowermito.or.jp] URL[http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

アニヴァーサリー・イヤーのビッグ・イベント!